

つくってみてね！

第1部 精神医療革命3つの嵐

# 3つの嵐 書き込みノート

コーディネーター 白石正明・神保康子

集客力



いろいろやって  
精神科病院をなくした



商売

しごと  
地域おこし

## なんぐん嵐

(渦巻き型台風;じっくり住民を巻き込む)  
愛媛県上空で発生

観光から地産地消へ

住民同士たくさんしゃべる



たくさんしゃべる

## オープンダイアログ嵐

(サンタクロース型台風;対話のプレゼント)  
フィンランド西ラップランド上空で発生

過疎地！⇒⇒⇒⇒不利を有利に利用。  
一対一じゃない⇒⇒向き合わないケア。  
快の追求⇒⇒⇒⇒良いことが増えると  
悪い物は見えなくなる。

3つの嵐の共通点は？





### べてる嵐

(上機嫌台風; 勢いだけはある)  
北海道浦河町上空で発生



いろいろやってたら  
精神科病棟がなくなった



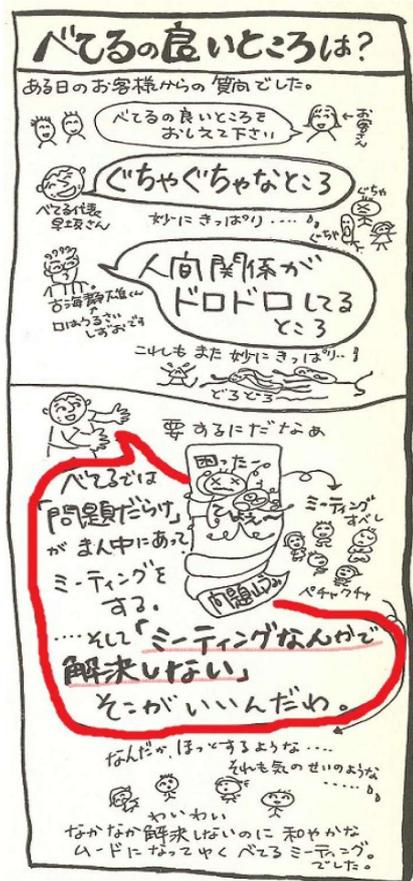
当事者同士  
たくさんしゃべる



ツール・ソフト

集客力

【参考】べてるの家の早坂潔さん、ナラティヴとかバフテンとかオートボイエーシスとか難しげな言葉で説明されるオープンダイアローグを、一言で解説しています。



『べてるの家の「非」援助論』  
(2002年)22ページより。

たといえばそれを「ケア関係からの離脱」と言ってみた  
気がする。「する／される」が固定した世界の外側  
へ、一歩踏み出したというか、それで救われるのは、  
「する側」なのか、「される側」なのか  
——はたしてあの大変な事件を起こした(彼)がこ  
れらの場所働いていたら、いったいどんな仕事ぶり  
だったのだろうか。

この三つの事例の共通点は何だろうか。過疎地?  
1対1対応からネットワーク重視へ? 原因を特定し  
て除去するという診断モデルの放棄? いくらでも  
挙げられるだろう。

時は下って一九九六年。四国の温暖な田舎町で病院  
の外に出る試みが始まった。衰退する地域のなかで、  
一次産業を中心とした生業を守り、多品種小ロット  
で生産と消費が地域内で回るシステムがつくられた。  
いつの間にか「患者」は「地域住民」になった。そして昨  
年、精神科病院は解体された。

同じ頃、サンタクロースの故郷、フィンランドの西ラッ  
ブランド地方にあるケロプダス病院では、ヤーコセ  
イツクラが心理士として働いていた。そこで開発され  
たのがオープンダイアローグ。住民から具合が悪い  
という連絡が入れば、スタッフ数人が24時間以内に出  
向き、何をするか?…ただ喋る。

一九七九年、一人の駆け出しソーシャルワーカーが、  
古い教会に留守番として住み込む。そこに翌年から  
浦河赤十字病院を退院した当事者たちが、次々と  
一緒に住み始め、一九八四年に「べてるの家」と名付  
けられた。その教会で何が行われていたか、悩みを分  
かち合い、喜びを語り…要するに喋っていたのだ。

つくってみてね！

第1部 精神医療革命3つの嵐

# 3つの嵐 書き込みノート

## なんぐん嵐

(渦巻き型台風;じっくり住民を巻き込む)  
愛媛県上空で発生

それぞれ違うところは？  
気になること、知りたいこと  
なんでも書いてみよう！

## オープンダイアログ嵐

(サンタクロース型台風;対話のプレゼント)  
フィンランド西ラップランド上空で発生

## べてる嵐

(上機嫌台風; 勢いだけはある)  
北海道浦河町上空で発生

3つの嵐の共通点は？